

キャラクター名
灯護 優真(ヒロイマ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	飢餓	初期侵食率	30	%
出自	兄弟	経験	記憶喪失	邂逅	幼馴染	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	0	0	0	1		1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 面影島	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
白き咆哮"バーン・アウト"	RC	7r+2	0	5		《コゼットレイト:キュマイラ》《魔獣の本能》《魔獣の衝撃》
L《ターゲットロック》《攻性変色》	RC	7r+2	0	24		C値-2 対象:単体 BS:暴走
総てを焼き尽くす慟哭"初代:ゲル"	RC	11r+2	0	25		(コゼットレイト:キュマイラ)《魔獣の本能》《魔獣の衝撃》《プラズマカノン》
L《ターゲットロック》《攻性変色》	RC	11r+2	0	52		C値-3 対象:単体 BS:暴走

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
思い出の一品	
フレーザー	
携帯電話	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
賢者の石"クリスタルレネゲイド"	P	N		
color: RE 家族	P 幸福感	N 悔悟		
color: WH 日常	P 憧憬	N 恐怖		
シリオ: 六白 傷無	P 懐旧	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コゼットレイト:キュマイラ	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV 下限値7							
魔獣の本能	1	2	Xジャー/リア	-	-	-	-	
効果:	判定を【肉体】へ変更							
ターゲットロック	3	3	セッアップ°	視界	単体	自動	-	
効果:	シーン間攻+[LV*3] 範囲は適用しない							
攻性変色	2	3	セッアップ°	視界	単体	自動	リミット	
効果:	《ターゲットロック》の攻+[LV*5] BS:暴走							
魔獣の衝撃	1	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果:	射攻 [攻: +5] 判定ゲイス+LV 1R1回							
プラズマカノン	3	4	Xジャー	視界	単体	対決	100	
効果:	射攻 攻: +[LV*5]							
獣の直感	★	-	Xジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果:	天候や地震を予測する							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「人の命も『日常』も、どっちも大事で、諦めちゃいけないもんだろ」

「—誰も悪くない。何も悪いものなんてない。ただ、"運が悪かった"。……それだけだったんだろうなあ」

自身の『日常』をこよなく愛する青年。
口数は少なく、若干不愛想なきらいはあるが、それはひとえに『日常』に住まう人たちを巻き込まない為である。
過去に遭ったとある"事件"で、家族を失い、オーヴァードとして覚醒。その際、"賢者の石"に適合した。——らしい。
らしい、というのは、その時のことをよく憶えていない為。気が付いたら、UGNに保護され、レネゲイドに関する知識を覚えてもらった。
"賢者の石"は喉にあり、普通にしていたら目に見える為、包帯で隠している。包帯の理由を聞かれたら、過去に巻き込まれた事件の所為でできた古傷があるから、といったことを言って濁す。(そういうと大抵深く突っ込んでこないから)
面影島出身ではあるが、家族が死んでしまったのでそのまま島外の親戚のところへ引き取られることに。面影島のことはそこ出身である以外憶えてない。
親戚との折り合いは決して悪いものではなかったが、若干の腫物扱いに申し訳なくしていた。
その時、親戚に「面影島に里帰りしてはどうか」と持ち掛けられ、ならばと思い、面影島へ単身転校することに。

そんな過去があるからか、人の命や『日常』というものを大切にしている。
自分が今生きているのは、それらを守るため、生きているのなら最後までそれらを諦めたくないという意志の固さがある。
その根底にあるのは、「もう誰も目の前で、目の前でなくても死んでほしくない」という思い。
たとえオーヴァードであろうとも、大怪我を負えば死んでしまうかもしれない。非日常の住人であろうとも、『日常』で、普通に、平穏に過ごしてもいいのでは
ないか。超常の力を持っていようと、"心"があるなら『ヒト』なのだから。
自身が人でない何かになっていても、自らの意志で、想いで生きているのなら『ヒト』である。という意志を持っているので、目の前で自身の命を軽んじる者が
いたら、普段の不愛想と口数の少なさはどこへやら、熱くなり口数が増える。